

シナイでの契約



安息日午後 8月16日

暗唱聖句

あなたがたは、わたしがエジプトびとにした事と、あなたがたを鷲の翼に載せてわたしの所にこさせたことを見た。それで、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである。あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう。(出エジプト記 19:4~6、口語訳)

あなたたちは見た／わたしがエジプト人にしたこと／また、あなたたちを鷲の翼に乗せて／わたしのもとに連れて来たことを。今、もしわたしの声に聞き従い／わたしの契約を守るならば／あなたたちはすべての民の間にあって／わたしの宝となる。世界はすべてわたしのものである。あなたたちは、わたしにとって／祭司の王国、聖なる国民となる。(出エジプト記 19:4~6、新共同訳)

今週の聖句

出エジプト記 19:1~20:17、黙示録 21:3、申命記 5:6~21、
ヤコブ 1:23~25、ローマ 3:20~24、ローマ 10:4

今週のテーマ

神はイスラエルをエジプトから解放したあと、どこに導かれたのでしょうか。約束の地へ——という答えは、地理的には正しくても、神学的には間違っています。「あなたたちは見た／わたし〔神〕がエジプト人にしたこと／また、あなたたちを鷲の翼に乗せて／**わたしのもとに連れて来たことを**」(出19:4)とあるからです。先の質問に対する聖書的・神学的な答えは、神の優先順位と目標を明らかにしています。主は彼らをご自身のもとに連れて来られたのです。

人間が神から離れると、神は彼らを捜し求めてご自身のもとに呼び戻されます。この真理の最良の例は、アダムとエバが神に対して罪を犯し、神から隠れたときのエデンの園にあります。神は率先して、「どこにいるのか」(創3:9)と呼びかけられました。神はいつも最初の一步を踏み出されるのです。

私たちの永遠の運命は、私たちの応答にかかっています。

問1 出エジプト記19:1~8を読んでください。このシナイ山のふもとで、神はイスラエルの人々に、どんなことを約束されましたか。

神はイスラエルの人々をシナイ山に導き、そこで間もなく十戒を与えられました。シナイ半島のジェベル・ムーサ（標高2285メートル）は、モーセが何度も神と出会った場所と考えられており（例えば、出3:1、19:2、24:18）、数百年後、エリヤもここで神と出会いました（王上19:8）。神がイスラエルをエジプトから導き出すためにモーセを召された山でもあります（出3:1、10）。神はモーセに、解放されたイスラエルとともにこの場所で神を礼拝することになると告げられましたが、それはモーセにとって、アブラハム、イサク、ヤコブの神が彼らを導いておられるというしるしになりました（同3:12）。

2か月の旅ののち、イスラエルの人々はシナイに到着し（出19:1）、そこで約1年間滞在することになりました（同19:1と民10:11、12を比較）。この1年の間に、出エジプト記19章~40章、レビ記1章~27章、民数記1:1~10:10に記されているように、多くの律法が与えられました。シナイ山でのイスラエルの滞在は、モーセ五書に記されている物語の中心部分です。ここに、彼らが神に選ばれた民、異教と偶像礼拝に染まっていない唯一の国民となるための基礎があります。

神は率先して、ご自分とイスラエルとの間に契約を結ばれました。神は、人々の従順と神との関係の維持を条件に、彼らを特別な宝、祭司の王国、聖なる国民にすると約束されたのです。

聖なる国民であるということは、神に献身し、神のご品性をほかの人々、特に周囲諸国に明らかにすることを意味します。彼らはまた、ほかの民を神と結びつけ、神のもとに導き、神の道と律法を教える祭司の王国として機能するようにも召されました。彼らは神の特別な宝となるはずでした。なぜなら、神はイスラエルを、神と神のご品性に関する知識で世界を照らすご自分の通路にしたいと望んでおられたからです。

この契約は、神と神の民との間の関係を法的に確立するものでした。一般的な契約の決まり文句は、聖句によって若干異なりますが、次のとおりです。「わたしはあなたたちをわたしの民とし、わたしはあなたたちの神となる」（出6:7、レビ26:12、エレ24:7、31:33、ヘブ8:10、黙21:3参照）。

神の「特別な宝」になったと想像してみてください。それにはどんな特別な権利が含まれ、あなたはどんな特別な責任を担うことになるのでしょうか。

問2 出エジプト記19：9～25を読んでください。十戒を受け取るために、神はイスラエルに、どんな準備をされましたか。

神は、シナイで律法を授ける準備として、イスラエルの民がなすべきことを具体的に指示されました。彼らの外面的な清さは、神に対する彼らの完全な献身を反映するものでした。彼らは、来るべき主の栄光のすばらしい顕現に備える必要がありました。そして、それが起こったとき、「雷鳴と稲妻と厚い雲が山に臨み、角笛の音が鋭く鳴り響いたので、宿営にいた民は皆、震えた」（出19：16）のです。

十戒は、神の啓示と聖書の倫理の中心です。それは全人類に対する神の基準の本質と基礎を形成しており、その原則は永久に不変であり、普遍的です。

聖書の記事によれば、十戒は神によって告げられ（出19：19、20：1、申5：4、5、24）、神によって書かれました（出24：12、31：18、申5：22）。それは、特別な「賜物」としてモーセに二度与えられました（出32：19、34：1、申10：1、2）。

出エジプト記では、十戒は「あかし」（ヘブライ語で「エドゥット」、出31：18、口語訳）、または「契約の言葉」（ヘブライ語で「ディブレイ・ハツベリット」、同34：28）と呼ばれており、申命記では、それらは「契約の板」に記されています（申9：9、11、15）。ヘブライ語のいずれの書巻も、「十戒」（「戒」に相当するヘブライ語の「ミツヴォット」という用語は使われておらず、代わりに、「（十の）言葉」（ヘブライ語で「アセレット・ハツデバリーム」）と3回呼ばれています。このヘブライ語は、「言葉、文、事柄、物、スピーチ、物語、約束、発言」を意味する「ダバル」の複数形です（出34：28、口語訳参照）。

十戒には、わずかな違いを含む二つのバージョンがあります。一つ目は出エジプト記20：1～17に、二つ目は申命記5：6～21に記録されています。二つ目のバージョンは、シナイからほぼ40年後、イスラエルの民が約束の地に入る直前に、モーセが彼らに口頭で伝えたものです（申1：3、4、4：44～47）。このような状況が、両者のわずかな違いを説明しています。

パウロが、律法は愛であると要約したとき、彼は十戒から引用しました（ロマ13：8～10）。確かに、愛は神の律法の総体です。なぜなら、神は愛の神だからです（1ヨハ4：16）。

十戒は神の愛のあらわれであるという考えを、あなたはどのように理解していますか。神の愛は、十戒の中にどうあらわれているのでしょうか。

問3 出エジプト記 20：1～17 を読んでください。十戒の原則は何ですか。
また、十戒はどのように構成されていますか。

十戒は、命令から始まっているのではなく、神の民に対する神の慈悲深い行いから始まっていることに注目してください。

「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である」(出20：2)。主は、まずイスラエルに自由と救いを与えることで恵みを示し、それから初めて御心を明らかにされるのです。これらの戒めは、神が彼らのためにしてくださったことへの愛と感謝から守るべきものでした。

十戒を要約する神の重要な言葉は、「愛」です(ロマ13：10)。最も重要な戒めは、愛の戒めであり、それは二つの形であらわされます。神への愛(申6：5)と隣人への愛(レビ19：18)です。

最初の四つの戒めにおいて、十戒は、神を愛するとはどういうことかを説明し、次の六つの戒めで、隣人を愛するとはどういうことかを説明しています。十戒は、何よりも神を敬うこと(垂直の愛)から始まり、他者を尊重すること(水平の愛)がそれに続きます。

- (第1戒) 人生のあらゆる状況において、神を第一にし、最優先することによって神を敬い、あがめること。
- (第2戒) 神の唯一無二の地位を尊重し、保持し、物理的、象徴的、霊的いかなる形であれ、神を偶像に置き換えないこと。私たちの最も純粋な愛情は主に属する。
- (第3戒) 神の名、つまりその名声やご品性をあがめること。
- (第4戒) 神の休息と礼拝の日、つまり安息日を尊ぶこと。
- (第5戒) 両親を敬うこと。
- (第6戒) 命を尊重すること。
- (第7戒) 結婚を尊重すること。
- (第8戒) 人々の財産を尊重すること。
- (第9戒) 他人の評判を尊重すること。
- (第10戒) 利己的な欲望によって品性が損なわれないように、自分自身を尊重すること。

イエスご自身が言われたように、「わたし〔イエス〕を愛しているならば、〔あなたがたは〕わたしのおきてを守る」(ヨハ14：15)でしょう。したがって、真の従順とは、単純に、イエスに対する愛と感謝の表現であり、その愛は隣人への接し方で最も強くあらわされるのです。

神の律法は、神のご品性、つまり神が何者であられるかを明らかにします。神が聖であり、義であり、善であられるように、神の律法もまた同様です。パウロは、「こういうわけで、律法は聖なるものであり、^{おきて}掟も聖であり、正しく、そして善いものなのです」(ロマ7:12) とはっきり述べています。

聖書では、神の律法は非常に肯定的に捉えられており(マタ5:17、18、ヨハ14:15、Iコリ7:19)、人は律法について詩を作り(詩編119編など)、律法について歌い(同19編)、昼も夜も律法について瞑想する(同1:2、ヨシュ1:8)ことができます。律法は人を悪から守るのに役立ち、知恵、理解、健康、繁栄、平和をもたらします(申4:1~6、箴言2、3章)。

- ① 神の律法は柵のようなものであり、人生に広い自由な空間を生み出し、特定の境界を越えると、危険、問題、厄介な事態、さらには死が待っていると警告してくれます(創2:16、17、ヤコ2:12)。
- ② 律法はまた、私たちの罪を赦し、私たちの人生を変えてくださるイエスを指し示す道しるべでもあります(IIコリ5:17、Iヨハ1:7~9)。このように、律法は「パイダゴゴス」(養育係/保護者/管理者)として、私たちをキリストのもとへ導いてくれます(ガラ3:24)。

問4 ヤコブ1:23~25を読んでください。彼は何を言っているのでしょうか。これらの聖句は、たとえ律法が私たちを救えないとしても、その機能と重要性がどんなものであるかを知るうえで、いかに役立ちますか。

確かに、鏡はあなたの欠点を明らかにできます。しかし、その欠点を直せるものは、鏡の中には何もありません。鏡は問題を指摘しますが、問題の解決策は提供しないのです。神の律法も同様です。律法を守ることによって神の前で義とされようとすることは、遅かれ早かれ鏡が自分の欠点を消してくれるだろうと期待しながら、鏡を見つめることに似ています。

クリスチャンの中には、救いは信仰によるのであって、律法を実行することを含む行いによるものではないため、律法は廃され、もはや律法を守る必要はないと主張する人もいます。言うまでもなく、律法そのものが罪を定義するものであること——「律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったでしょう」(ロマ7:7)ということ——を考えれば、そのような主張は、律法と福音の関係について大きく誤解しています。律法の存在こそ、私たちが福音を必要とする理由を示しているのです。

問 5 ローマ 3：20～24 を読んでください。パウロは、十戒を守ることによって救われることはないとはっきりと述べていますが、では、十戒は私たちの生活の中で、どんな役割を果たすのでしょうか。

モーセの著書の中で「十戒」をあらわすために用いられた「デバリーム」（出34：28、申4：13、10：4）というヘブライ語の文字どおりの意味は、「戒め」ではなく、「言葉」です。この「言葉」（単数形は「ダバール」）という語には、「約束」という意味もあります。それゆえ、「ダバール」は多くの聖句において（王上8：56、代下1：9、ネヘ5：12、13、申1：11、6：3、9：28、ヨシュ9：21、22：4、23：5）、約束という概念をあらわす名詞、または動詞として翻訳されています。

エレン・ホワイトは、十戒の機能について、「十戒とは……十の約束である」（『SDA聖書注解』第1巻1105ページ、英文）という洞察をもたらしてくれています。十戒は、神が私たちのためにすばらしいことをなしうるよう、私たちを正しい道に導く神からの約束として理解されるべきなのです。しかし、私たちはそれらの戒めに従わなければなりません。

問 6 ローマ 10：4 を読んでください。キリストは律法の「終わり」（口語訳）であるというパウロの言葉を、私たちはいかに理解すべきですか。

パウロは、イエス・キリストが律法の「テロス」とであると述べていますが、それは、キリストが律法を廃されるとか、なくされるという意味ではありません。そうではなく、キリストが律法の目標であり、意図であるという意味です。それは、キリストのあがないの犠牲によって、律法の有効性や永続性が終わるという意味ではないのです。

それどころか、パウロは、律法的重要性、その正当性、その永続的な権威について語っています（ロマ3：31、Iコリ7：19、ガラ5：6）。「テロス」という言葉の意味は、おもに目的や目標に関係しており、時間とは関係ありません。キリストは、神の律法の真の意味と目的を解き明かす鍵です。したがって、キリストが法律を無効にしたとか、破棄したとか、廃止したと言うのは、正しくありません。キリストは律法の目標であり、律法が指し示すお方なのです。

参考資料として、『人類のあけぼの』第27章「十戒」の前半部分と第29章「律法に対するサタンの敵意」を読んでください。

「神は、ご自分の律法を語られる時を、その重大性に応じて、荘厳な光景にしようともくろまれた。民は、神への奉仕に関連した一つひとつを最高の尊敬をもって見なければならないことを印象づけられるのであった」（『希望への光』154ページ、『人類のあけぼの』第27章）。

この畏敬の原則は、今日でも有効です。それは、神の偉大さ、超越性、威厳を理解することから生まれます。神の栄光を見るとき、私たちの心には感謝が生じ、私たちの高慢さは打ち砕かれます。神の聖さを間近に見れば見るほど、私たちは自分の人生の不完全さに一層気づくようになり、私たちを変える神の臨在をさらに渴望し、もっと神のようになりたいと願うのです。

また、神や神の聖なる律法と対比し、私たちがどんな存在であるかを知ること、私たちはキリストの身代わりの死に完全に頼るようになります。

同時にイエスは、もし私たちが神を私たちの主であり王であると謙虚に受け入れるなら、神の命令に従うことは難しくないと明言されました（マタ11：28～30）。キリストは、神の律法が永久に有効であることも明らかにしておられます（同5：17～20）。神が私たちに無償で与えてくださった救いのゆえに、神に対する愛と感謝の気持ちからその律法を守るとき、私たちは神との救いの関係を豊かに経験することができます。律法を守ることによって大きな利益を享受できるだけでなく（何よりも、律法を破ることによってもたらされる痛みと困難に目を向けてください）、私たちの救いは律法を守ることによってではなく、イエスによって得られるという確信も享受することができるのです。

話し合いのための質問

- ① 「わたしはあなたたちをわたしの民とし、わたしはあなたたちの神となる」という契約は、今日の私たちにとって、どんな意味があるのでしょうか。そして、個人として、また集団として、どのようにあらわされるべきでしょうか。
- ② 神は、私たちに命じたことを、私たちが実行できるようにしてください。エレン・ホワイトは、「神のお命じになることはどんなことでも、成し遂げることができるのである」（『希望への光』1315ページ、『キリストの実物教訓』第25章）と述べています。人はこの約束、「ダブル」を、どのように実践することができるでしょうか。
- ③ 十字架のあと、律法は廃止されたという意見をよく耳にしますが、私たちはどう答えるべきでしょうか。彼らが見失っているものは何でしょうか。